

## 資料B

平成27年度文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」

静大発“ふじのくに”創生プラン

# COC+事業の総括

2020. 07

1

## 大学におけるCOC+事業の成果

- 地域理解
- 教育改革
- 高等教育機関の連携
- 学生の地域志向
- 学生の自主性・自立性の涵養

## ● 地域理解

1. 大学教育に対する産業界・自治体等の協力
2. 産学官金就職支援体制

## ● 地域理解

### 1. 大学教育に対する産業界・自治体等の協力

- ① インターンシップ事前研修プログラムにおいて、静岡商工会議所の役員・企業経営者（約50名）と学生（約100名）とのトークセッションを実施（H29）



以後、インターンシップ事前・事後研修会において、静岡商工会議所会員企業の先輩社会人がメンターとして参加し、学生の相談相手となるグループワークを継続して実施している（H30～）

- ② 産業界・自治体・静岡ロータリークラブ等からの授業の提供

- ・静岡経済同友会静岡協議会との連携授業「地域社会と企業活動」（H30～）
- ・清水銀行による協力講座「地域創造特論Ⅱ」（H29～）
- ・静岡県交通基盤部による「社会資本マネジメント論」・「公共施設デザイン論」（H28～）

ほか静岡県や市町の行政マンによる講師の派遣など

## ● 地域理解

## 2. 産学官金就職支援体制

- ① 学生と**企業**双方にとって有効なものとなるような様々なインターンシップの開発と企業等とのマッチング会, 事前・事後研修会, 企業向け説明会などの企画・実施に注力



「クロスボーダー型インターンシップ」(藍澤証券株と連携), 「ワークラリーしずおかインターンシップ」, 「長期・有償型インターンシップ」, 「TOUR DE HAMAMATSU」などの学生ニーズに対応する様々なプログラムを実施し, 継続して実施する体制を確立

- ② **自治体**からの支援による相談会・セミナー等の実施

- ・静岡県の魅力発見相談会(H29～)…県および市町と協働し12市町の相談ブースを設置
- ・公務員とコウムインを考えるトークセッション(H30～)…各自治体職員約30名が協力
- ・保護者のための就活セミナー(H30～)…県および3市と共催 **ほか**

## ● 教育改革

1. アクティブラーニングやPBL型授業の推進
2. 産業イノベーション人材育成プログラム

他に、地域志向科目及びキャリアデザイン科目の必修化等の教養教育改革や全学学士課程横断型教育プログラム「地域創造学環」の開設等をおこなった

## ● 教育改革

### 1. アクティブラーニングやPBL型授業の推進

#### ①地域志向科目のアクティブラーニング(能動的学修)導入状況

H26:10科目中4科目(40.0%) → H28:18科目中11科目(61.1%) → R1:31科目中30科目(96.8%)

#### ②PBL(Project Based Learning)型授業:プロジェクト型学習

大学教育に、地域のあらゆる企業・団体に関わる機会をつくり、その過程で育った学生が静岡で活躍していくスキームを確立させたい



### 「地域連携プロジェクト型セミナー」の導入(H25～)

学生と教員が地域住民と関わりつつ地域振興や活性化につながる企画や研究を実施するプロジェクトを通して、学生の地域理解と当事者意識の醸成を促し、静岡の未来をけん引する人材の育成を目的とする

「I Loveしずおか協議会(会員企業約460)」をハブとした運営体制で実施  
平成29年6月に同協議会と協定を締結し、同協議会会員企業が講師を担当する実施体制を整備

## ● 教育改革

### 2. 産業イノベーション人材育成プログラム

世界のモノづくり拠点として、イノベーションを実現するために産業界で求められているのは、

「何を学んできたか」+「それらをいかに現実の問題に応用できるか」

#### 「産業イノベーション人材育成プログラム」の開設（H30～）

静岡大学大学院総合科学技術研究科 工学専攻および情報学専攻キャンパスの修士課程学生を対象とした付加価値型の教育プログラム

- ・ 実際の「もの・こと」に対峙し、主体的に課題を解決していく経験
- ・ 社会人基礎力の伸長を重視した教育  
「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」

地域の産業界と連携するインターンシップ（長期または短期）やPBL型授業（産業イノベーション創造演習）を取り入れた特徴的なカリキュラム

地域の人材ニーズに対応



## ● 高等教育機関の連携

1. 「ふじのくに学」の推進
2. 地域活動の取組成果の発信

## ● 高等教育機関の連携

### 1. 「ふじのくに学」の推進

#### 「ふじのくに学」

(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアムと協定を締結している大学等の学生を対象に、本県の地域資源等に関する短期集中共同授業(フィールドワークを含む)を実施し、本県地域の特性等について、大学等の正規の科目として学生に提供することで、地域に根差した人材を育成する



- ・平成30年度から単位互換授業を4科目から8科目に拡充し、令和元年度には9科目の授業を実施
- ・静岡県ならではの地域学でもある「ふじのくに学」を全県的な地域志向教育プログラムとして体系化を目指し、拡充及び履修証明プログラム化の検討を進めている



科目 (開校大学)	日程 * ( ) は予備日	単位	内容	定員
お茶 (静岡県立大学)	9/13、14、15、16	2	農学、作物学、生産・加工・流通まで多様な視点からお茶を総合的に学ぶ	40
農林業A：夏種 (静岡大学)	6/22、7/20、 8/26、27	2	森林観察や林業体験を通して静岡県の農業と林業の夏の作業の特徴について学ぶ	40
演劇論 (静岡英和学院大学)	8/16、 17又は18 (選修制) 19、20、21	2	静岡県舞台芸術センターを題材に、講義や演技・演劇鑑賞を通して演劇への理解を深める	30
防災 (静岡大学)	9/3、4、10、11、 12、18、 10/20又は26 (両日とも 日程確保をお願いします)	2	自然災害のメカニズムを理解し、防災対策の必要性とその効果について学ぶ	30
富士山 (静岡大学)	9/21(23)、10/6、 11/30、12/7(14)	2	地球科学、芸術文化など多様な視点から富士山の自然と人との関わりについて学ぶ	40
農林業B：秋冬種 (静岡大学)	9/17、18、 10/12、12/7	2	森林観察や林業体験を通して静岡県の農業と林業の秋冬の作業の特徴について学ぶ	40
南アルプスの自然 (静岡大学)	10/26、27	1	静岡市井川地区で南アルプスを題材に自然と人間社会の共生について理解する	20
観光学 (静岡県立大学)	1/18、19	1	伊豆半島を舞台に本県の多彩な観光資源を生かした「世界クラスの観光地域づくり」を学ぶ	20

\*募集は科目ごと実施日の約2カ月前に各大学の窓口を通じて行います。詳細はHPにも掲載します。



お問い合わせ  
 公社法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム  
 Tel : 054-249-1818 Fax : 054-249-1820  
 E-mail: mail@fujinokuni-consortium.or.jp



<http://www.fujinokuni-consortium.or.jp/>

## ● 高等教育機関の連携

### 2. 地域活動の取組成果の発信

#### 「静岡県内大学地域教育・研究フェア」(H29～)

県内大学の地域活動の発信を目的に、4大学が合同で課題解決・人材育成に関する活動の報告をポスター形式で発表し、各大学の様々な着眼点から地域課題を考察した結果・成果を学生が一般の方に向けて説明した。

時期: 2月中旬

場所: JR静岡駅北口地下広場イベントスペース

出展: 静岡県立大学・常葉大学・静岡英和学院大学・静岡大学

来場者数: 各年500名以上



- ・学生にとって積極的に自大学における地域活動の成果を直接一般の方に発信できる貴重な機会となる
- ・高等教育機関にとっても連携してイベントを共同実施することにより、相互の事業の課題や成果を共有できる機会であり、交流できる場となる

## ● 学生の地域志向

1. COC+事業の認知度
2. 学生による地域活動の活性化

## ● 学生の地域志向

### 1. COC+事業の認知度

- ① COC+事業の開始以降、定期的を実施している学生への事業の認知度調査の結果、COC+事業のスタッフ学生による広報活動等の成果もあり、調査するごとに上昇している結果となっており、大学の地域活動への認識が高まっているものと思われる。

COC+事業の学生認知度

H28:42.7% → H30:53.3% → R1:56.4%

- ② 地域志向科目の受講者を実施している受講による地元就職意欲の喚起状況「地元就職意欲を喚起された学生の割合」を同様に調査し、大体70%を超える受講者が授業によって喚起されたと回答している。

地元就職意欲を喚起された学生の割合

H28:69.2% → H30:78.9% → R1:70.9%

地域志向科目受講者数(1,035名)

(1,246名)

(1,769名)

## ● 学生の地域志向

## 2. 学生による地域活動の活性化

浜松キャンパスの学生を中心に起業志向の学生団体の活動が盛んに見られるようになった

### ① 静岡ビジネスクラブ

静岡大学情報学部教員による「静岡ビジネスアカデミー」によって立ち上げた学生団体「静岡ビジネスクラブ」(H30年4月～)の学生が、地域の金融機関の支援を受けながら地域の企業から直接情報収集し、学生が主体となった企業研究フェア・マッチング等の運営や、実際に大学祭にて起業を体験するイベントを実施している。

### ② NoKin.

静岡大学及び参加校(静岡文化芸術大学)の学生が県西部地域で立ち上げた学生クリエイター集団「NoKin.」(H31年4月～)は、各学生が専攻する分野の知識や技術を活かし、地域企業から請け負ったIT業界の人材育成に向けたインターンシッププログラムを企画するなど、地域活性化に繋がる提案を行っている。なお、このインターンシッププログラムはNPO法人静岡情報産業協会主催により会員企業の協力を得て実現した。

静岡キャンパスにおいては、COC+事業の広報を中心に活動しているCOC+スタッフ学生が、「就活テーブルトーク」を実施し、就活前の学生を対象に県内就職内定学生とのトークを中心とした就活について気軽に学べる場を提供した。(H30,R1)

## ● 学生の自主性・自立性の涵養

1. 地域課題解決への取組
2. 静大フューチャーセンター

## ● 学生の自主性・自立性の涵養

### 1. 地域課題解決への取組

- 地域創造学環(全学学士課程横断型教育プログラム) H28～
- 地域づくり副専攻 H29～

地域創造学環及び地域づくり副専攻(全学部対象)のフィールドワークの実施により、  
全学部生に地域課題解決のスキルを養うことができるカリキュラムを提供



- ・地域創造学環では、在学中に継続して同じ地域の課題解決に取り組むことによって地域人材としての自覚や当事者意識が醸成され、学びや気づきの度合いが深まりつつある
- ・新入生が毎年続いて同フィールドに入ってくるため、課題が引き継がれ共有されることにより、長期的な展望で課題解決に臨める環境にある



地域創造学環フィールドワーク報告会(毎年5月開催)にて、積み重ねの重要性が伺える報告が多数あり、フィールドワーク実施の課題等について話し合う「地域連携会議」(フィールドワークの受入担当者や地域のステークホルダーの方々に参加)においても高く評価された

※令和元年度の報告会については、コロナウイルス感染防止のため中止し、報告書による公表のみと致しました。



## ● 学生の自主性・自立性の涵養

### 2. 静大フューチャーセンター

多様なメンバーが集まり、地域や組織に起こる問題や課題を**未来志向**でとらえ、**オープン**な雰囲気、理念のもと、立場や肩書き、経験などの**違いを歓迎しながら**、**対話(フューチャーセッション)**を通して、**解決へのアクション**につなげる場であり、静大フューチャーセンターは「新しい未来に出会える場」を標ぼうしている。

静岡大学の学生を中心に、本学学生支援センターキャリアサポート部門の教員がバックアップする形にて、H25年度より始まり、これまでに100回以上を開催してきた。運営を担ってきた学生たちの中から、卒業後NPO法人の代表理事として活動する者のほか、企業に勤めながら地域活動に取り組む、いわゆる「プロボノ活動」を実践する者も輩出している。



- ・ 菊川市や南伊豆町、藤枝市などの地域への出張型セッションも積極的に実施
- ・ 高大接続も意識し、地元高校との連携による高校生を対象としたセッションも予定



学生と地域との接点が着実に広がり、  
地域のリーダーとなる若者が育ち交流する土壌を形成